

# 2-5

## 保護者の学校・授業への意識と 子どもへの働きかけの状況

Benesse 教育研究開発センター 小林 洋

### はじめに

「学力向上のための基本調査2004」で総合教育力の構成要素の一つとして「家庭の教育力」を位置付けて調査を行って以来、保護者を対象とした調査は今回が3度目となる。前回の同調査2006では、子どもの読解力の育成に資する保護者の働きかけを調べることに中心を置いた調査を行った。今回は、家庭学習充実に向けて前節で見た教師の取り組みや次節で見る校長の取り組みとともに、保護者についても「家庭学習支援力」という概念を新たに導入している。本節では、学校の授業や宿題への保護者の意識や要望の動向と「家庭学習支援力」の発揮の状況を報告し、学校を基盤とした家庭学習充実を考えていくための参考材料を提供することを目的とする。

### 1 保護者の学校・授業への要望や意識

図表2-5-1は、学校の宿題に関する保護者の要望・意識を問う設問に対する回答結果を示したものである。任意複数選択方式による選択割合（アンケート回答人数に対する各項目選択件数の割合）と学校間のバラツキの程度を表す標準偏差（ $s$ ）、ならびに標準偏差を選択割合で割った変動係数（ $cv$ ）を示している（図表の注記参照）。後者の変動係数は、学校別の選択割合平均に対する

相対的な変動の大きさを表している。図表では、選択割合（標準偏差、変動係数）の順で示している。また、図表が示す保護者の回答結果は、宿題の在り方の現状に対する保護者のニーズを示すものではあるが、一般的に現状の充足度に規定されたものであり、各項目への本来的な重要度の認識とは同じではないことに注意してほしい。

#### 1 基礎・基本ドリルの宿題の充実、復習的な宿題を望む声が過半数を占める。 しかし、学校による違いが大きい。

「基礎・基本ドリルの宿題」「課題について調べてまとめるような宿題」「自由研究や体験的な学習の宿題」「基本的な生活習慣づくりに役立つ宿題」という宿題の種類に関する設問の中では、小5・中2保護者ともに、「基礎・基本ドリルの宿題」の充実を求める声が圧倒的に高い。他の宿題については、小5・中2保護者ともに、数%から10%前後の割合となっている。学校間のバラツキの絶対的な程度を示す標準偏差は、この4つの中では「基礎・基本ドリルの宿題」の充実の項目が最も大きく、小5・中2保護者ともに、8ポイント程度になっている（図表に示していないが、この項目の選択割合が、最も高い学校・最も低い学校の数値は、小学校では84.6%・41.7%、中

学校では68.9%・37.1%となっている）。しかし、選択割合に対する相対的な変動の大きさでは、この4つの項目の中では、小5・中2保護者ともに、「基礎・基本ドリルの宿題」が最も小さく、「自由研究や体験的な学習の宿題」が最も大きい。

「毎日宿題を出してほしい」という声は、小5保護者で32.8%、中2保護者で23.3%となっており、毎日宿題を望む声はとくに多いわけではない。ただし、はじめに注意を促したように、この割合は、宿題は本来毎日必要と考えている保護者の割合と同じではない。「学校の宿題はどれくらい出ていますか」という別の問い（図表略）に対して、「毎日出ている」と回答している割合が、小5保護者で90.3%、中2保護者で47.3%となっ

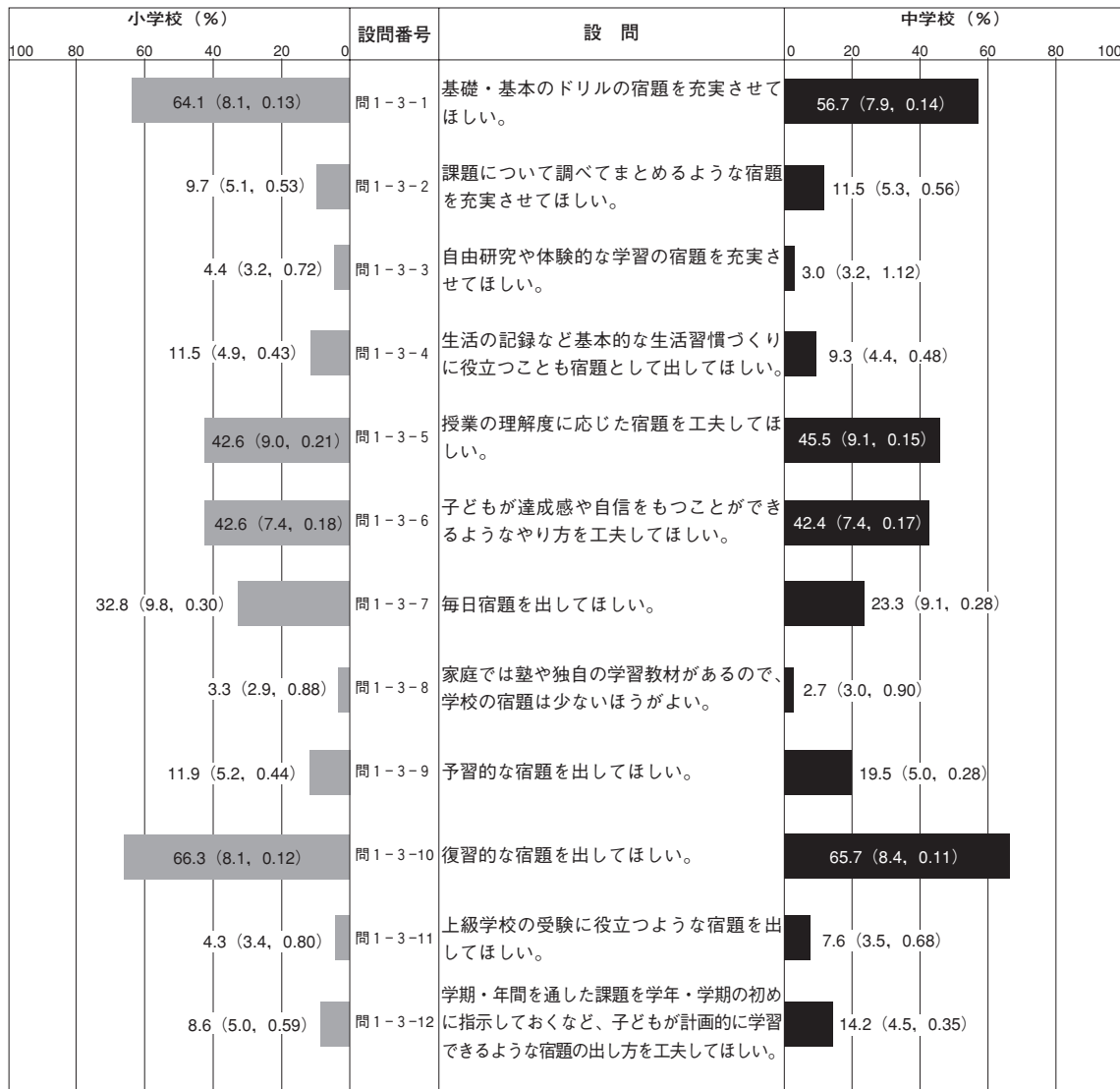
ており、上の「毎日宿題を」の選択割合は、この現状を反映した数値になっていると考えられる。また、「毎日宿題を」の項目の標準偏差は、小5・中2保護者ともに、全体の中で一番大きく、学校による選択割合の違いが最も大きい項目となっている（最も高い学校・最も低い学校の数値（図表略）は、小学校：56.7%・11.8%、中学校：36.4%・8.6%）。ただし、変動係数は、いずれも0.30程度である。

また、「予習的な宿題」と「復習的な宿題」とでは、後者の宿題を望む声のほうが突出して大きい。小5・中2保護者ともに、これらの標準偏差はそれぞれ5ポイントと8ポイント程度となっているが、標準偏差を選択割合で除した変動係数は逆転して「予習的な宿題」のほうが大きくなっており、選択割合に対する相対的な変動幅で見ると、「予習的な宿題」の充実を望む声の学校による違いがより大きいことがわかる。

図表 2-5-1 保護者の宿題に対する要望

(複数選択可)

( , ) = (標準偏差, 変動係数)



注)「あなたは、学校の宿題に対して、どのようなことを望んでいますか?」の設問に対する任意複数選択による回答状況を示す。選択割合は、項目選択件数/アンケート人数を示している(学校別選択割合の平均をとったものではないことに注意)。標準偏差(s: standard deviation)は、学校別選択割合の学校間のバラつきの絶対的な大きさを示す。変動係数(c v: coefficient of variation)はこの標準偏差を学校別選択割合の平均で割ったもので学校別選択割合の平均に対する相対的な変動の大きさを示す。なお、問1-3-13「その他」は省略している。

**2 「教科書範囲の確実な習得」「理解度に応じた授業の工夫」「実験・観察や体験的な学習の充実」を望む声が強い。しかし、宿題と同様に学校による違いが大きい。**

図表2-5-2は、前述と同様に、学校の授業に対する保護者の要望・意識を問う設問への回答結果（選択割合と学校平均の標準偏差、変動係数）を示したものである。

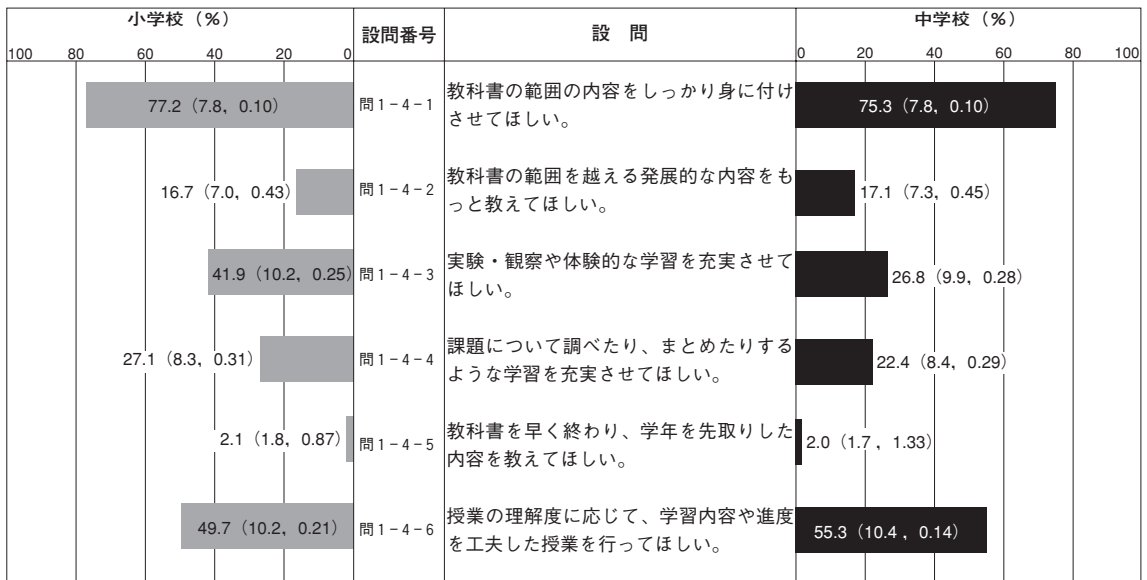
授業への要望の中で、最も高いのは、小5・中2保護者ともに、「教科書の範囲の内容をしっかりと身に付けさせてほしい」という項目で8割弱となっている。これに対して、「教科書の範囲を越える発展的な内容をもっと教えてほしい」という要望は2割に満たない。次いで高いのが、「授業の理解度に応じて、学習内容や進度を工夫した授業を行ってほしい」という要望で5割前後となっている。次いで、小5・中2保護者ともに、「実

験・観察や体験的な学習を充実させてほしい」という要望である。この項目は、小5保護者(41.9%)と中2保護者(26.8%)との差が最も大きい。学校間のバラツキの程度を示す標準偏差を見ると、最も大きいのが、小5・中2保護者ともに「授業の理解度に応じて学習内容や進度を工夫」、次いで(小5では並んで)、「実験・観察や体験的な学習の充実」となっている。ただし、選択割合に対する相対的な変動が最も大きいのは、小5・中2保護者ともに、「教科書を早く終わり、学年を先取りした内容を教えてほしい」という項目である。

図表2-5-2 授業に対する保護者の要望

(複数選択可)

( , ) = (標準偏差, 変動係数)



注)「あなたは、学校の授業に対してどのようなことを望んでいますか?」の設問に対する任意複数選択による回答状況を示す。問1-4-7「その他」は省略している。標準偏差と変動係数については図表2-5-1の注記参照。

**2 学校による家庭学習充実の取り組みに対する保護者の認識と学校評価との関係**

図表2-5-3は、学校の学力向上の取り組みの状況に対する保護者の認識・評価(問2)の各項目の平均スコア(4:とてもあてはまる、3:ややあてはまる、2:あまりあてはまらない、1:まったくあてはまらない、としてスコア化したもの(基準値2.50))、ならびに問2のそれぞれの学校

評価の項目と他の学校評価項目間の相関係数平均、ならびに問2の各学校評価項目と、「家庭学習の充実の取り組みへの評価(問2-5)」ならびに学校への「総合的満足度(問4-1)」との相関係数を示したものである。

図表に示す学校の学力向上の取り組み状況に対

する保護者の認識・評価の項目は、「学力向上のための基本調査2006」で設定した項目と、問2-5を「家庭学習の充実」に関する項目と入れ替えていることを除いて同じである。各項目の平均スコアは、基準値2.50以上のものが学校の取り組みの肯定的な評価を示すスコア、それ未満のものが否定的な評価のスコアという意味をもつ。中2保護者の回答の一部の項目を除いて、大多数は基準値を超えたスコアとなっている。平均スコアの詳細の確認は省略する。

相関係数について楕円の印をつけたものは、それぞれ縦に見て、相関係数の大きい上位5位までの項目を示している。「学校評価全項目との相関平均」は、各項目について問2のそれぞれの項目との相関係数の平均をとったものであり、ここに示した学校の取り組みの評価項目全般に対する相

関の平均的な強さを表す。この相関平均が高い項目は、小5保護者では「この学校は、子どもの将来への夢を育み、目標を持たせることに熱心である(問2-16)」「この学校は、子どもの個性やよいところを認めて伸ばしてくれる(問2-19)」「この学校は、熱心に授業や生活指導にあたっている教師が多い(問2-6)」などとなっている。中2保護者でもほぼ同様であるが、全般に相関係数がやや高くなっている。ここに挙げたような相関平均が高いいずれかの項目で保護者の評価が高い(低い)学校は、他の項目についても評価が高い(低い)学校であることが多いことを意味する。「家庭学習の充実(問2-5)」については、相関平均が小5保護者0.43、中2保護者0.45であり、上に挙げた項目ほど学校評価全般との相関が強くない。

### 3 「家庭学習充実の取り組み」の評価との相関では、「学力向上の取り組みに関する保護者への説明」が最も強い。

この「家庭学習の充実(問2-5)」と他の項目との相関を見ると、最も相関係数が高いのは、小5・中2保護者ともに「この学校は、学力向上の取り組みによる成果と今後の取り組みを保護者にわかりやすく説明している(問2-4)」という項目であり、学校の取り組みの保護者への説明の機会が、家庭学習充実に関する学校の取り組みの説

明や保護者への協力依頼がなされる機会となることが少なくないことの反映と考えられる。次いで、小5保護者では「この学校は、教科の基礎・基本の指導に熱心である(問2-11)」、中2保護者では、「この学校は、よりわかりやすい授業の実践に熱心に取り組んでいる(問2-3)」という項目となっている。

### 4 総合的満足度との相関が最も強いのは、小5保護者では「熱心に授業や生活指導にあたっている」こと、中2保護者では「『育てたい子ども像』や教育目標がわかりやすい」こと。

「総合的満足度との相関係数」は、「この学校に子どもを通わせてよかったと思う(問4-1)」という設問と問2の各項目との相関の強さを見たものである。最も相関係数が高いのは、小5保護者では、「この学校は、熱心に授業や生活指導にあたっている教師が多い(問2-6)」(0.29)、次いで「この学校は、子ども同士の学び合いや助け合いを大切に授業を行っている(問2-20)」(0.27)、中2保護者では、「この学校の『育てたい子ども像』や教育目標は、具体的でわかりやすい(問2-1)」(0.23)、次いで「この学校は、熱心に授

業や生活指導にあたっている教師が多い(問2-6)」(0.21)となっている。「家庭学習の充実(問2-5)」との相関は、小5保護者0.19、中2保護者0.16で高くはない。

このように、現状では、保護者の学校による家庭学習の充実の取り組みの認識と学校評価全般や学校への総合的な満足度との相関は相対的に高いとは言えない。保護者にとって最大の関心事は、学校での授業・指導の全体としての充実であり、家庭学習の充実はその一部という認識の表れなのかもしれない。

図表 2-5-3 家庭学習充実の取り組みに対する保護者の認識と「学校評価」との関係

設問の カテゴリー	設問番号	設 問	小5 保護者				中2 保護者			
			平均 スコア (4 件法)	相関係数			平均 スコア (4 件法)	相関係数		
				学校評価 全項目と の相関係 数平均	家庭学習 充実の 評価との 相関係数	総合的満 足度との 相関係数		学校評価 全項目と の相関係 数平均	家庭学習 充実の 評価との 相関係数	総合的満 足度との 相関係数
学校経営の 基本姿勢	問 2-1	この学校の「育てたい子ども像」や教育目標は、具体的にわかりやすい。	3.01	0.44	0.40	0.21	2.87	0.44	0.41	0.23
	問 2-2	この学校は、保護者や地域の声を学校運営や授業改善に積極的に取り入れている。	3.03	0.44	0.43	0.24	2.79	0.44	0.36	0.16
	問 2-3	この学校は、よりわかりやすい授業の実践に熱心に取り組んでいる。	2.97	0.48	0.44	0.25	2.72	0.50	0.50	0.18
	問 2-4	この学校は、学力向上の取り組みによる成果と今後の取り組みを保護者にわかりやすく説明している。	2.75	0.47	0.52	0.19	2.53	0.49	0.56	0.17
	問 2-5	この学校は、家庭学習の充実にも積極的に取り組んでいる。	2.74	0.43	1.00	0.19	2.48	0.45	1.00	0.16
組織・体制 の確立	問 2-6	この学校は、熱心に授業や生活指導にあたっている教師が多い。	2.99	0.49	0.43	0.29	2.82	0.50	0.45	0.21
	問 2-7	この学校では、教師によって授業の進め方や進度に大きなバラツキがない。	2.67	0.38	0.36	0.12	2.51	0.38	0.36	0.09
	問 2-8	この学校は、子どものことを担任教師だけではなく、多くの教師が協力し合っていて見られている。	2.99	0.45	0.35	0.23	2.84	0.48	0.38	0.17
	問 2-9	この学校は、保護者や地域の人々の力を授業によく生かしている。	2.89	0.43	0.40	0.19	2.43	0.45	0.36	0.10
教育資源の 有効活用	問 2-10	この学校は、パソコン教室や空き教室などの施設・設備を十分に活用している。	2.87	0.42	0.36	0.16	2.58	0.46	0.43	0.11
教育課程の 編成と実践	問 2-11	この学校は、教科の基礎・基本の指導に熱心である。	2.90	0.49	0.50	0.23	2.69	0.50	0.48	0.15
	問 2-12	この学校は、自分で調べたり、調べたことを発表したりする学習に熱心である。	2.95	0.44	0.34	0.20	2.70	0.47	0.45	0.16
	問 2-13	この学校は、子どもに本を読ませたり、文章を書かせたりする指導に熱心である。	2.94	0.42	0.40	0.20	2.79	0.42	0.40	0.12
	問 2-14	この学校は、授業で子どもが自分の考えや意見をはっきり言うように指導している。	2.97	0.44	0.32	0.21	2.72	0.49	0.43	0.15
	問 2-15	この学校は、社会性や他者への思いやりなど、豊かな人間性の育成に熱心である。	2.92	0.49	0.42	0.22	2.78	0.49	0.36	0.20
	問 2-16	この学校は、子どもの将来への夢を育み、目標を持たせることに熱心である。	2.63	0.50	0.44	0.18	2.65	0.52	0.47	0.17
	問 2-17	この学校は、コンピュータやインターネットの使い方をしっかり身に付けさせようとしている。	2.55	0.40	0.30	0.11	2.45	0.43	0.35	0.10
	問 2-18	この学校は、子どもの成績をつける基準や考え方がはっきりしている。	2.57	0.48	0.40	0.13	2.64	0.45	0.39	0.12
	問 2-19	この学校は、子どもの個性やよいところを認めて伸ばしてくれている。	2.85	0.50	0.38	0.22	2.64	0.50	0.37	0.17
	問 2-20	この学校は、子ども同士の学び合いや助け合いを大切に授業を行っている。	2.94	0.49	0.36	0.27	2.68	0.51	0.38	0.18

注)「あなたのお子様通っている学校では、次のようなことはどの程度あてはまると感じますか?」の設問に対する回答結果について、平均スコア(4件法; 基準値 2.50)、学校評価全項目との相関係数平均、家庭学習充実の項目(問 2-5)と学校評価各項目との相関係数、ならびに学校の総合的な満足度と学校評価各項目との相関係数を一覧にしている。楕円は、各指標について縦に見て、上位5位までのものを示す。詳細は本文参照。



### 3

## 保護者の子どもへの家庭学習支援の働きかけの状況

次に、今回の調査で新しく導入した「家庭学習支援力」について見ていくことにする。第2章第1節で述べている通り、「家庭学習支援力」は、「学力向上のための基本調査2004」で提唱した「総合教育力」の構成部分である「家庭の教育力」(DIPモデル)に内包されるものであるが、主に家庭での学校の学習を支援する力として操作的に定義したものである。

図表2-5-4は、「家庭学習支援力」として設定した25項目に対する保護者の回答状況を示している。設問のカテゴリーは、第2章第1節図表2-1-6の概念モデルに準じている。宿題にきちんと取り組ませることや勉強の相談に乗ることなど学習充実の働きかけを行っている保護者の割合は高い。この働きかけは、「テストへの計画的準備」を除いて小学生の保護者のほうが中学生の保護者よりも全般的に強いことがわかる。「とてもあてはまる」の数値で見ても高いのは、小5

保護者では、「学校の宿題は、期日までに必ずやり終えるようにさせている(問5-3)」(60.4%〔まああてはまる〕の回答合計で94.4%)、次いで、「授業に必要な教科書やノート類は、前日の夜のうちに準備させている(問5-5)」の50.0%(同85.4%)、中2保護者では、「勉強するスペースや教材を置いておく場所を確保している(問5-24)」の34.2%(同84.4%)、次いで「学校の宿題は期日までに(問5-3)」の33.3%(同82.3%)となっている。一方、「授業の予習をきちんとさせている(問5-1)」は小5・中2保護者ともに低く、「まああてはまる」の回答を含めても25%に満たない。「授業の復習をきちんとさせている(問5-2)」は、予習よりも高いものの「宿題を期日までに」と比べると保護者からの働きかけは弱い。授業の予習をきちんとさせるという保護者の働きかけの弱さは、前に図表2-5-1で見た「予習的な宿題」を望む声の低さと対応している。

図表2-5-4 保護者の家庭学習支援の状況

設問のカテゴリー	小学校 (%)					設問番号	設問	中学校 (%)					
	100	80	60	40	20			0	0	20	40	60	80
A 学習習慣の確立支援	22.3		54.7		18.4	問5-1	授業の予習をきちんとさせている。	19.6		57.5		18.7	
	1.3				3.3			2.6				1.5	
	10.0		37.9		42.8	7.8	問5-2	授業の復習をきちんとさせている。	32.1		48.3		13.4
	1.4					0.8		4.6				1.7	
	0.8					3.7						3.7	
B 生活習慣の確立支援	34.0			60.4		問5-3	学校の宿題は、期日までに必ずやり終えるようにさせている。	33.3		49.0		12.6	
	1.2											1.4	
	11.6		46.4		33.0	7.6	問5-4	テストには、計画的に準備してのぞむようにさせている。	14.6		52.6		26.7
	1.4					2.3						4.8	
	1.1					0.5						1.3	
B 生活習慣の確立支援	11.1		35.4		50.0	問5-5	授業に必要な教科書やノート類は、前日の夜のうちに準備させている。	22.7		39.0		28.1	
	1.1											8.5	
	10.0		54.8		33.7	問5-6	できるだけ栄養のバランスのよい食事をとらせるようにしている。	26.5		59.9		11.5	
	1.0											1.6	
	0.9											1.0	
B 生活習慣の確立支援	13.0		47.4		37.7	問5-7	早寝早起きなど、規則正しい生活をするようにさせている。	25.9		51.3		19.6	
	0.9											2.3	
	16.5		51.3		29.8	問5-8	勉強するときの部屋の照明や姿勢に気をつけさせている。	18.9		54.3		23.1	
	1.0											1.0	
	1.9											2.4	
B 生活習慣の確立支援	19.9		50.2		26.9	問5-9	家で勉強するのに必要な図書や資料は、自分で整理整頓するようにさせている。	22.8		52.4		20.9	
	1.0											1.2	
												2.7	
												1.2	

図表2-5-4 保護者の家庭学習支援の状況（つづき）

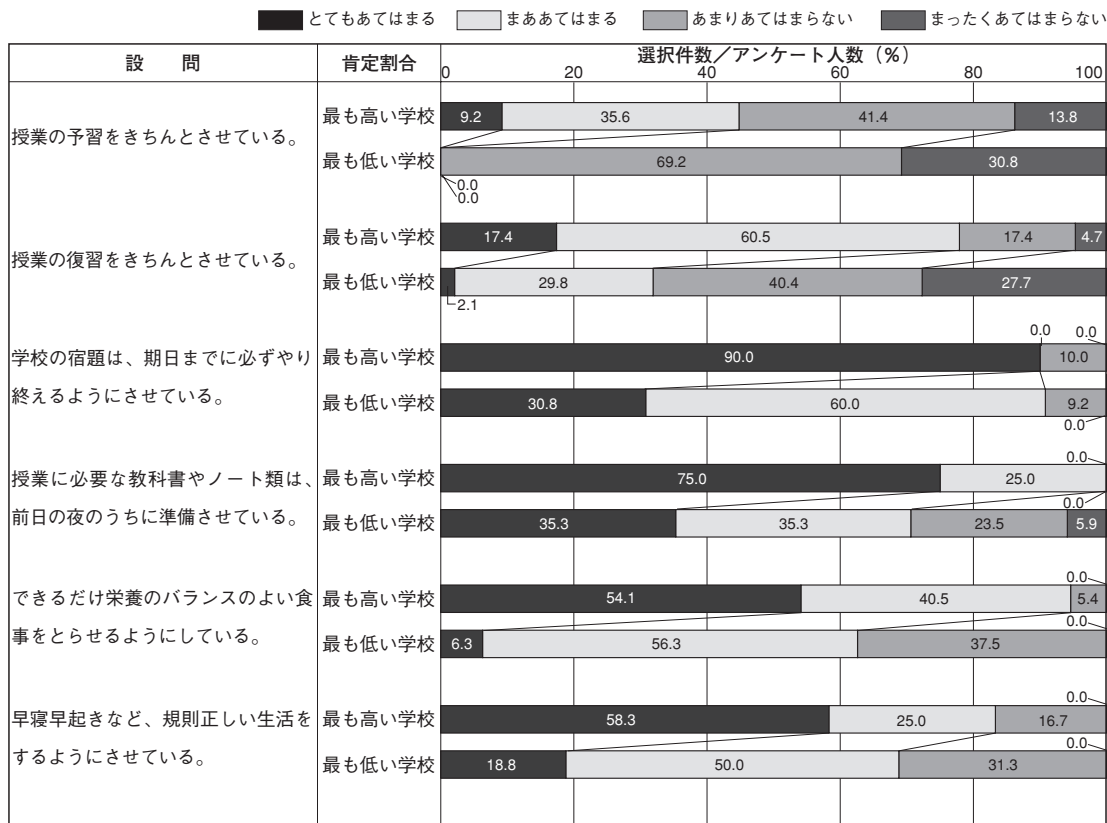
設問のカテゴリー	小学校 (%)					設問番号	設 問	中学校 (%)					
	100	80	60	40	20			0	0	20	40	60	80
D 心理的な支援	1.2						問 5-10	家でする勉強も頑張るように応援している。	27.0	59.0		11.4	1.6
	8.8	54.4			34.4							1.0	
	-1.1						問 5-11	勉強でわからないときや困ったときには相談に乗っている。	23.2	54.6		18.6	2.7
	0.3	4.5											0.9
	-1.0						問 5-12	子どもがリラックスできるようにアドバイスをしている。	12.9	54.2		28.4	2.9
1.4												1.6	
C 自律性の育成支援	-1.3						問 5-13	ふだんから新聞やテレビニュースをもとに、社会の動きについて一緒に話し合うようにしている。	15.1	48.1		31.8	3.7
	3.5	33.6			44.1	17.8							1.3
	-1.1						問 5-14	苦手な教科も家でしっかり勉強して得意になるように励ましている。	13.8	54.9		26.7	3.2
	2.3	28.9			51.5	15.9							1.4
	-1.4						問 5-15	テレビやラジオなどをつけないで集中して勉強するようにさせている。	16.2	37.1		37.7	7.9
5.6	31.4			37.6	24.5							1.1	
E 教材・体験の提供	-0.9						問 5-16	いろいろな誘惑に負けないで勉強するようにアドバイスしている。	12.9	54.2		27.8	3.7
	2.9	25.8			52.9	17.4							1.4
	-1.0						問 5-17	家でする勉強に、やりとげる頑張り目標を決めるようにアドバイスしている。	7.9	43.2		41.7	5.7
	4.1	36.5			47.1	11.6							1.5
	-0.7						問 5-18	自分でやれる適切な教材を与えて授業の理解や定着に利用させている。	10.2	40.8		39.1	8.4
9.3	37.7			39.1	13.1							1.5	
F 学習環境条件の整備	-0.8						問 5-19	休日を利用して、体験型学習に参加させている。	8.5	53.0		35.4	1.4
	25.8				53.0	15.5							1.7
	-1.1						問 5-20	ふだんから本や事典類を勉強に活用させている。	31.5	48.5		11.8	1.7
	4.6	9.1			42.0	37.6	10.1						6.5
	-1.2						問 5-21	コンピュータを使った教材やインターネットを学習に活用させている。	28.1	40.7		23.5	6.2
28.4				40.8	23.1	6.7						1.4	
F 学習環境条件の整備	-1.0						問 5-22	家では、子どもが落ち着いて勉強できる静かな環境づくりをこころがけている。	11.3	48.6		33.2	5.4
	5.2	35.3			46.3	12.1							1.4
	-1.1						問 5-23	学校の図書館だけでなく、地域の図書館や資料館なども勉強に活用させている。(地域に該当の施設がない場合は、4を選択。)	17.9	46.8		30.1	3.7
	2.0	22.9			41.2	25.0	9.8						1.6
	-1.1						問 5-24	勉強するスペースや教材を置いておく場所を確保している。	34.2	50.2		11.7	2.6
10.5				46.4		40.5						1.3	
F 学習環境条件の整備	-0.6						問 5-25	学校などから配付された「家庭学習の手引き」を活用している。(該当のものがとくにない場合は、4を選択。)	16.8	34.4		43.9	2.4
	44.1				31.1	20.3							3.1
	-1.4												2.5

注)「あなたの家庭での、子どもへの働きかけについて、次のようなことはどの程度あてはまりますか?」の設問に対する回答状況を示す。

なお、宿題や授業への保護者の要望の強さは学校による違いが大きいことを前に見たが、これと同様に、保護者の子どもへの働きかけの状況につ

いても、学校によってかなりの違いがある。その例を示したのが図表2-5-5である。

図表2-5-5 保護者の働きかけの学校による違い(例) (小5保護者)



注) 小5保護者について、肯定割合が最も高い学校と最も低い学校の違いを示す。項目ごとに最も高い学校と最も低い学校に該当する学校は異なる。図表に挙げていない項目についても同様の違いがある。中2保護者も同様である。

## おわりに

「学力向上のための基本調査2004」の保護者調査の結果報告の際にも記したことが、保護者の学校の授業や宿題に対する要望あるいは保護者自身による子どもへの働きかけの状況も学校によって非常に大きな違いがあることを改めて痛感する。一つひとつの学校がそれぞれ異なる状況を抱

えて教育実践に取り組んでおり、平均値で学校の状況を語ることはできない。

学校が保護者との連携や保護者への働きかけを考えるにあたっては、自校の実態を確認することが大切であることを改めて示していると言える。